



青森農研フラッシュ

研究成果

(地独) 青森県産業技術センター・農林部門

大豆認定品種 「シュウリュウ」 の品種特性

農林総合研究所

県内の大豆作付は、面積の9割以上で品種「おおすず」が作付けされていますが、**しわ粒の発生**が多く、検査格付けにおける落等要因の上位を占めています。

農林総合研究所では「**おおすず**」に比べ、**しわ粒の発生**が少なく、その他の諸特性も概ね同等以上である「**シュウリュウ**」を**有望と評価**し、平成29年3月に、青森県の第2種認定品種※に指定されました。

特 性

農林総合研究所(黒石市)における成績
(5月下旬播種 平成22、24～28年)

項 目	シュウリュウ	おおすず
成熟期	10月12日	10月10日
倒伏程度(0～5)	1.8	1.2
主茎長(cm)	63	49
最下着莢高(cm)	14.0	11.3
子実重(kg/a)	42.6	41.1
同比率(%)	104	100
粗蛋白質含有率(%)	45.0	44.1

※ 第2種認定品種とは

奨励品種の指定前において市場調査を行うために試作する品種として、県農林水産部長が指定。

◆ 認定品種制度について

米・小麦及び大豆の生産者が消費者等のニーズに迅速に対応し、自らの生産・販売戦略に基づき自主的に作付品種を選択することができるように、奨励品種制度を補完するもの。



しわ粒の発生が少ない

野菜研究所(大戸町)
平成25～26年



しわ粒の発生割合
(「かぶと」と「ちりめん」の合計)

しわ粒について



収穫時のロスが少ない



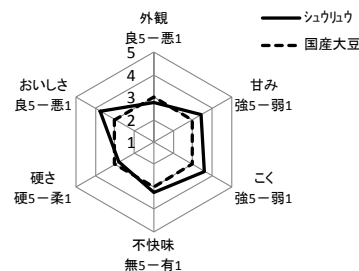
(写真:「おおすず」)

「シュウリュウ」は、株の一番下に着く莢の位置(最下着莢高)が高いため、機械収穫時の刈残しが少ない。



豆腐の品質が高評価

県内メーカーによる木綿豆腐の比較
(「国産大豆」使用と「シュウリュウ」使用)



「シュウリュウ」を使用した豆腐は、食味の評価が高かった。

今後の取組み

「シュウリュウ」に関心の高い大豆に携わる関係者が連携して、品種特性の周知及び栽培・加工・種子生産・集出荷・保管・販路などの市場調査を行うため、情報共有及び意見交換を目的とした「シュウリュウ研究会」を立ち上げ、新品种を導入する際の様々な課題を検討していくこととしています。

シュウリュウ研究会



お問い合わせ

農林総合研究所 作物部(Tel.0172-52-4396)

あすなろ卵鶏の母方種鶏 「卵黄重選抜系統」の改良

畜産研究所

青森県の特産鶏である「あすなろ卵鶏」は、**翡翠色の卵殻色**と**大きな卵黄**を持つ卵を生産する採卵鶏です。

あすなろ卵鶏の母方種鶏である「卵黄重選抜系統(白色レグホン種)」の**産卵能力を改善するため、新たな系統を造成**して、その能力調査を行いました。

新系統交配の背景

現系統の課題

あすなろ卵鶏の母方種鶏
「卵黄重選抜系統」(青森WL)

卵黄重増加に伴う卵形変化

産卵率の低下

丸すぎる異常卵

理想形

卵黄重の増加に伴い、球形状の卵の発生が増加する。



新系統の交配

青森WL

導入WL



F1

青森WL



戻し交配を
2回実施

新系統

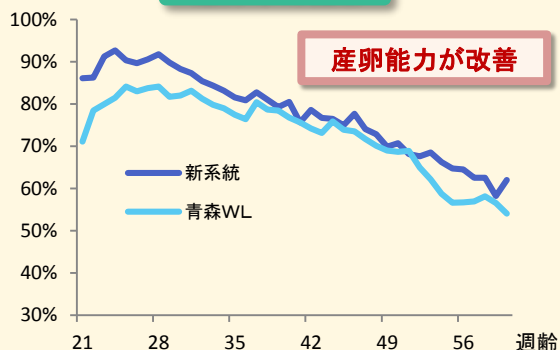
新系統の能力調査(青森WLとの比較)

産卵成績

	新系統	青森WL
初産日齢	136.4	138.0
ピーク産卵率	92.7%	84.1%
ピーク産卵週齢	24	25
産卵率(正常卵のみ)	83.4%	79.0%
正常卵率	97.4%	97.2%
破卵率	0.3%	0.5%
軟卵率	2.3%	2.3%

産卵率が改善、初産日齢も早まった

産卵率の推移



卵径係数(低いほど理想的な卵形※1)

項目	新系統	青森WL
卵縦径(mm)	57.7	57.1
卵径横(mm)	45.0	44.9
卵径係数※2	78.1	79.4

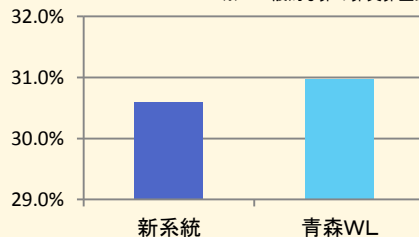
※1: 理想的な卵形の卵径係数は75とされる

※2: 平均値を記載

卵の形が改善

卵黄卵重比(卵黄の割合※)

※: 一般的な卵の卵黄卵重比は28%前後



新系統が若干劣る

今後、更なる
改良が必要

期待される効果

◆ あすなろ卵鶏の「産卵能力」改善

▶ 生産性が向上

◆ あすなろ卵鶏の「卵径係数」改善

▶ 規格外の廃棄卵の減少、商品化率の向上

お問い合わせ

畜産研究所 中小家畜・シャモロック部(Tel 0175-64-2790)

あおもりの未来、
技術でサポート

AITC

青森
産技

「スマートフレッシュくん蒸剤」の りんご極早生・早生品種 に対する 日持ち性向上効果

りんご研究所

りんごの極早生・早生品種は、収穫後の品質が劣化しやすいため、徹底した管理が必要です。

そこで、鮮度保持剤のスマートフレッシュくん蒸剤（有効成分：1-メチルシクロプロペン（1-MCP））を利用した場合の日持ち性向上効果を検討しました。

その結果、安定して高い効果が期待できる品種とこれらに対する処理適期が明らかとなったので紹介します。

高い効果が期待できる極早生・早生品種

あおり16(恋空)



硬度の低下を抑制

1-MCP 処理適期

収穫翌日まで

未来ライフ



◆ 硬度の低下を抑制
◆ 油あがりの発生を抑制

1-MCP 処理適期

収穫翌日まで

さんさ



硬度の低下を抑制

1-MCP 処理適期

収穫3日後まで

つがる



◆ 硬度の低下を抑制
◆ 油あがりの発生を抑制

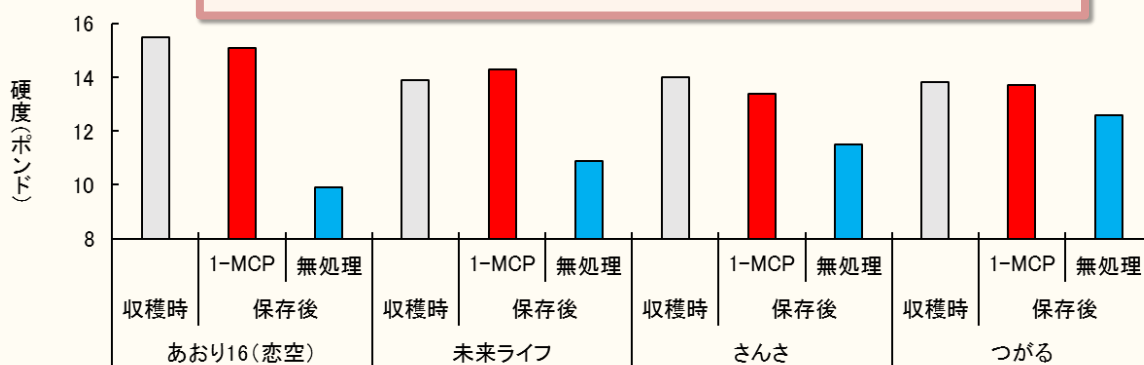
1-MCP 処理適期

収穫3日後まで

スマートフレッシュ
くん蒸剤
(1-MCP)の
日持ち性
向上効果※

※収穫後20℃で
7～10日間の
日持ちを想定

本剤で処理した果実は、収穫後に20℃で7日間保存した後も
果肉の硬度が収穫時並に維持された。



利用上の注意事項



- ◆ 「つがる」に発生する茶星（茶色の斑点）は、本剤で処理しても抑制できません。
- ◆ 本剤で処理した果実は香気成分の生成が抑制されるため、風味が少なく感じることがあります。

お問い合わせ

りんご研究所 栽培部 (TEL0172-52-2331)

いちごの品種育成の取り組み

野菜研究所

いちごは生食用、加工用とも需要の増加が期待されています。栽培は冷涼な気候を好むことから、青森県は栽培適地のひとつであり、本県は東北農研と共同でイチゴの品種育成に取り組んでいます。

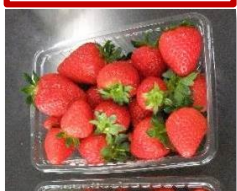
東北農研から提供された新系統のイチゴ苗を野菜研究所で栽培し、青森県に適するかを見極めた上で、本県の品種育成に反映させるべく検討しています。

現在、所内試験で有望と判定した一季成り性「盛岡36号」と四季成り性「盛岡37号」について、現地試験を実施しています。

一季成り性「盛岡36号」の特徴

- ◆商品果収量は640g/株である。
- ◆1果重は14g程度と大きい。
- ◆果実の硬さは「北の輝」より柔らかめ。

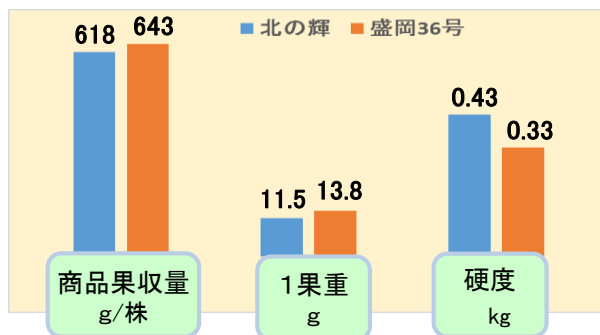
盛岡36号



現地試験栽培の状況(平川市)



露地栽培で試験を実施。



所内の栽培試験結果
(H26, H27の平均値)

四季成り性「盛岡37号」の特徴

- ◆商品果収量は570g/株である。
- ◆1果重は11g程度である。
- ◆果実の硬さは「なつあかり」より硬め。

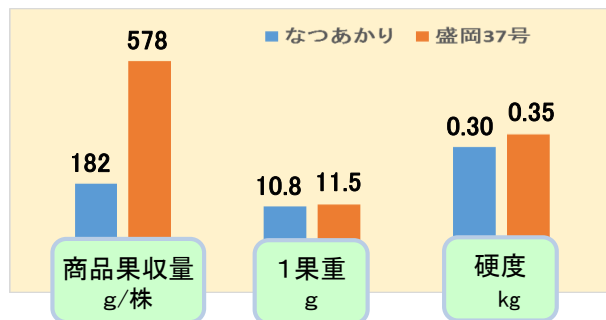
盛岡37号



現地試験栽培の状況(弘前市)



ハウス内の高設栽培で
試験を実施。



所内の栽培試験結果(H27, H28の平均値)
※なつあかりに生育不良株が発生し、
商品果収量が低くなった。

今後の展開

現地試験の結果や、他県の結果が良ければ東北農研と協議して品種登録を進めていく予定です。

お問い合わせ

野菜研究所 品種開発部 (TEL0176-53-7419)